
派手な4人の普通の七夕

雨雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

派手な4人の普通の七夕

【NZコード】

N3969M

【作者名】

雨
雨

【あらすじ】

見た目は派手だけど、中身は普通の大学生4人のとある七夕。

(前書き)

殺伐とした小説を書いていたので、ちょっとほのぼのが書きたくな
りました。（ほのぼのとしているよね…）

「ハルちゃんーん！！

願い事、ちゃんと書いたあ？？」

間延びした発音と甲高い声、そしてこのクソ蒸し暑い中なのに抱きついてくることへの多少の面倒臭さを覚えながらも、声の主を見やるハル。

声の主は、ピンクのレースとリボンの塊のような服を着た髪型縦ロールの女。

暑苦しい。

御歳19。

あと5年もすれば、イタイ女として後ろ指を指されるだろ。いや、童顔だから10年を要するかもしれん。

「…リュウ。つるわい。トーン押せえろ」

がつちりと、その縦ロールの髪が崩れようと、構わず、ハルはアイアンクローブ見舞つた。

「あーん、冷たい。

でもそんなどこにもス・テ・キョウ

思わず指にぐっと力が入る。

「ああああ、リュウの『メカニ』が青くなつてきてるからーーー！なんかその色ヤバいからーーー！
その辺でやめたげてーーー！」

慌ててコウスケが止めに入る。

両耳に4個ずつビニルか、片眉にもピアスを開けた、金髪パンク野郎だ。

ドに違いないとハルは思っている。
とあるバンドのドラマーらしい。

ハルは彼のライブを見に行つたことはまだない。
それにして、こいつの黒づくめな格好も暑苦しい。

「ハル、できたんなら筆につかちやつて。リュウも」

騒ぎなどなんのその。

マイペースなメガネ王子。

あだ名はナギといつ。

派手な顔はそこらのアイドルなどではなく、当然モテるけれども無愛想なため、彼を好きな女子は電信柱の陰から見守るタイプの女子が圧倒的だ。

ハル達の通う大学には彼の隠れファンクラブがあるとかないと
いう噂。

たぶん本当だ。

コウスケの制止は無視し、ついでにリュウの生死も無視し、とどめに更に指に力を込めてからハルはリュウを手放し、眞で用意した笹に自分の短冊をとりつけた。

「まつてまつて、私も付けるう~

ゾンビ並みの復活力で再生したリュウが十数枚もの短冊を持つて駆け寄る。

「おつま…。ボンバーありすぎじゃね？？」

リュウの短冊の量にユウスケが呆れる。

「どれが叶うか分かんないんだから、たくさん書いたの…。
ユウちゃんだって、変わんないじやん」

ユウスケの手にも、リュウほどではないが、十枚ほどはあります
な短冊。

「数打ちや当たる方式かよ…」

「本人満足ならいいんじゃない？」

ハルとナギはそんな会話をしながら、すでに短冊をつけ終わり、
他の飾りを黙々とつけている。

なんだかんだと騒ぎながら、笹には短冊と七夕飾りがつけられ、
それなりに綺麗だ。

「これで畳つてなけりやあ、もつと雰囲気出たのになあ

残念そうにユウスケが言つ。

「なんか、七夕って毎年畳つてて、天の川を見たためしがない気が

するなあ「

ハルは夜空を見るが、残念ながら、今年も天の川を見る」とはできなかつた。

大学の屋上。

笹を飾り付けて、天の川を見ながら酒盛り。
残念ながら、天の川は見れなかつたけれど。
ベタだけど、それなりに楽しい。

今しかできないことだらうなあ。

ぬるくなつたビールはひどく苦いとハルは思つた。

おまけ　4人の願い事およびコメント

ナギ：無病息災。

ユウスケ「渋い…つーか、爺クセえ」

リュウ「ナギちゃん、風邪ひいたことないって言ってなかつた??」「

ハル「要するに、現状維持つてことだろ」

ナギ「健康は大事だよ」

リュウ：ハルちゃんとずっと仲良くｗ　ハルちゃんと一入きりでテ
ートｗ　ハルちゃんと観覧車に乗るｗ　ハルちゃんと… ETC・(　
ハル関係が以下も続く)

ハル「つづこ」

ユウスケ「ここまで来ると変態だな」

ナギ「他のことはないの?」

リュウ「私、ハルちゃん命だから つていうか、ユウちゃんなんてこと言ひのぉ!...」

ユウスケ：田指せバンダのメジャー・デビュー!! 金を貯めて車を
買つー!! ETC.

ナギ「これ、願い事つていうより目標だよね」

ハル「一番の願い事は見られたくないから、カモフラージュだろ」「リュウ? あつ、こら、ユウちゃん!! 今隠した短冊も公表しなよ!! 私だつて全部見せたんだから~」

ユウスケ「気のせいだ。ちゃんと全部公表した(リュウと西想いになれますよつに)!!」

ハル：運命の出会いがほしい

リュウ・ユウスケ「...マサミさんがいるの?」

ナギ「マサミさんには内緒にしなきゃね...」

リュウ・ユウスケ「そつじやないと後が怖い」

ハル「なんで?」

(後書き)

いつか書きたい小説の登場人物たちで短編書いてみました。
大学生4人グループの青春（？）モノかなあ??

紅い瞳（）が一段落したら、少しずつ書いていきたいなあ、と思つて
います。

ちなみに、マサミさん＝ハルの恋人です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3969m/>

派手な4人の普通の七夕

2010年10月28日08時21分発行